

透析患者の新型コロナウイルス感染症対策

—都道府県透析医会（支部）におけるこれまでの状況と今後の課題—

日本透析医会医療安全対策委員会委員長 篠田俊雄

北海道	久木田和丘	岩手県	大森 聡	宮城県	竹内和久	山形県	出川紀行
福島県	鈴木一裕	茨城県	山縣邦弘	栃木県	中川洋一	群馬県	猿木和久
埼玉県	雨宮守正	千葉県	東 仲宣	東京都	安藤亮一	神奈川県	穴戸寛治
新潟県	山本 卓	富山県	中村朋子	石川県	田谷 正	山梨県	三井克也
岐阜県	松岡哲平	静岡県	加藤明彦	愛知県	稲熊大城	三重県	武内秀之
滋賀県	有村哲朗	京都府	中ノ内恒如	大阪府	山川智之	兵庫県	石井洋治
奈良県	米田龍生	和歌山県	北 裕次	島根県	伊藤孝史	岡山県	有元克彦
広島県	土谷晋一郎	香川県	山中正人	高知県	谷村正信	福岡県	金井英俊
佐賀県	牧野順一	長崎県	大坪俊夫	熊本県	副島一晃	鹿児島県	萩原隆二
沖縄県	比嘉 啓						

新型コロナウイルス感染症については、その動向が未だ予断を許さない状況下である。各都道府県透析医会（支部）におけるこれまでの対応、課題および今後の対応等について情報共有することは、今後の透析医療の提供体制に大きく資するものと確信する。以下に各都道府県における取組状況について極めて貴重な報告をいただいたので掲載する。

（なお、この内容は、本年9月上旬頃の状況についてであることにご留意いただきたい）

日本透析医会医療安全対策委員会委員長 篠田俊雄

北海道

北海道における透析患者の新型コロナウイルス感染症対策

—これまでの状況と今後の課題—

北海道透析医会会長 久木田和丘

……灰色の空が地を蔽う。人々は顔を隠し下向きにとぼとぼと歩く。辛うじて持ちこたえてきた希望にも足かせがはめられ、いにしえの囚人のように歩く……

と一体になって感染対策に取り組んでいきたい。

広島県

広島県における透析患者の新型コロナウイルス感染症対策

—これまでの状況と今後の課題—

広島県透析連絡協議会会長/特定医療法人あかね会 土谷晋一郎

1 広島県における対策の経緯

[令和2年1月28日] 内閣は、新型コロナウイルスによる肺炎を感染症法に定める指定感染症に指定する政令を公布した。これを受け広島県は、1月29日、広島県新型コロナウイルス対策特別警戒本部（本部長：湯崎英彦広島県知事）を設置した。この特別警戒本部には、医療調整本部（本部長：浅原利正広島県参与）が設置された。

[4月3日] 広島県透析連絡協議会（（公社）日本透析医会広島県支部：以下、協議会）は、県健康福祉局医務課から新型コロナウイルス感染症（COVID-19）感染拡大時期における透析医療提供体制を確認したいという相談を受け、健康福祉局医務課と連名で、県下全透析施設（108施設）に対し、「感染症対策に係る透析医療機関アンケート調査票」（図1）を送付した。

[4月10日] 県内での感染拡大を防ぐため、湯崎知事は県民に対し、週末の11日（土）・12日（日）両日、県内全域で不要不急の外出を自粛するよう要請した。県内感染者は4月に入ってほぼ毎日確認され、3月末時点の4倍に増加しており、急拡大の兆しを見せているとして協力を求めた。

[4月16日] 緊急事態宣言の区域変更が行われ、広島県も対象区域となった。広島県では透析設備を有する感染症指定病院が少なく、透析患者が感染した場合、入院調整が困難となることが予想されたため、協議会は広島県に対しCOVID-19透析患者治療体制の構築について要望書を提出した。

[4月22日] 広島県は、COVID-19患者に適切な医療を提供するため、医療調整本部に新型コロナウイルス感染症患者受け入れ調整本部（トリージセンター、本部長：浅原参与）を設置した（図2）。以後、トリージセンターが、COVID-19患者の入院調整を担当することとなった。

[4月27日] 協議会は、返送されてきた調査票（図1）の集計結果を健康福祉局医務課に提出した。76施設から回答があり（回答率70.4%）、別室隔離または時間隔離ができる医療機関は32施設であった。トリージセンターを中心としてこの集計結果を基に協議し、患者数が少ない場合はA病院とB病院に入院患者受け入れを依頼することとなった。

[5月8日] 広島県知事（健康対策課）、広島大学病院長（腎臓内科）、協議会会長三者連名にて、4月3日発送のアンケート（図1）で隔離可能と回答があった32施設に対し、重症透析患者・中等症透析患者受け入れ可否についてのアンケート（図3）を送付した。

[5月25日] 「透析患者に対するCOVID-19の医療提供体制検討会議」が県庁で開催された。アンケート（図3）の結果を基に、透析患者に対する医療提供体制について協議を行った。重症患者については、A病院、B病院に加え別の医療機関にも依頼することとなり、軽症・中等症の透析患者の受け入れ医療機関の確保については、検討会議メンバーでさらに協議した後、広島県から各医療機関に依頼することとなった。

医療機関名	
担当者職名	
担当者氏名	
電話番号	
FAX番号	
メールアドレス	

1 現在の透析の実施状況を教えてください。

A	透析用ベッド数		床	
B	透析患者数	月水金	火木土	合計
				0人
C	現在の体制で患者紹介があれば追加で受け入れ可能な患者数			0人

2 感染防止対策の状況についてお伺いします。

疑い患者や軽症感染者を隔離透析するための次の対応は可能でしょうか。

D	別室を確保し、分離可能である。		
E	飛沫距離(2m以上)を空け、衝立、カーテンなどで、分離可能である。		
F	感染者と非感染者の透析時間帯を、午前と午後、夜間に分けるなどにより、分離可能である。		
G	D,E,Fいずれの方法でも対応できない場合において、透析診療を可能とするための条件(これがあれば透析可能である条件)を具体的に記入ください。		
H	入院が必要な疑い患者の隔離入院は可能ですか。可能な場合、その人数を教えてください。		人
I	入院が必要な疑い患者がある場合、関連(連携)施設への入院依頼は可能ですか。		

※4月1日付け日本透析医学会の通知「新型コロナウイルス感染症に対する透析施設での対応について(第4報)」に、写真、図解付きで紹介されていますので参考にしてください。

3 今後、他の透析施設で透析できなくなった場合、非感染患者の受け入れをお願いすることも考えられます。緊急時において、受け入れ要請医療機関からのスタッフの応援がない状況で、クール数を増やすなどにより、追加で受け入れ可能な人数を教えてください。

J	1日あたりの追加受け入れ可能数	月水金	火木土	合計
				0人
K	追加で受け入れるため必要な条件			

4 その他。透析医療体制についての課題などがございましたら記入ください。(自由記入欄)

L	
---	--

※本アンケートについては、保健所などの行政機関において共有させていただきます。

図1 感染症対策に係る透析医療機関アンケート調査票

[6月3日] 広島県知事・健康対策課は、感染透析患者受け入れを表明した医療機関宛に COVID-19 透析患者の入院受け入れを依頼する文書および、「県内における新型コロナウイルス感染が疑われる透析患者の対応フロー図」(図4)を送付した。

[6月8日] 協議会は全会員宛に、トリアージセンター主導のもと、COVID-19 透析患者の治療

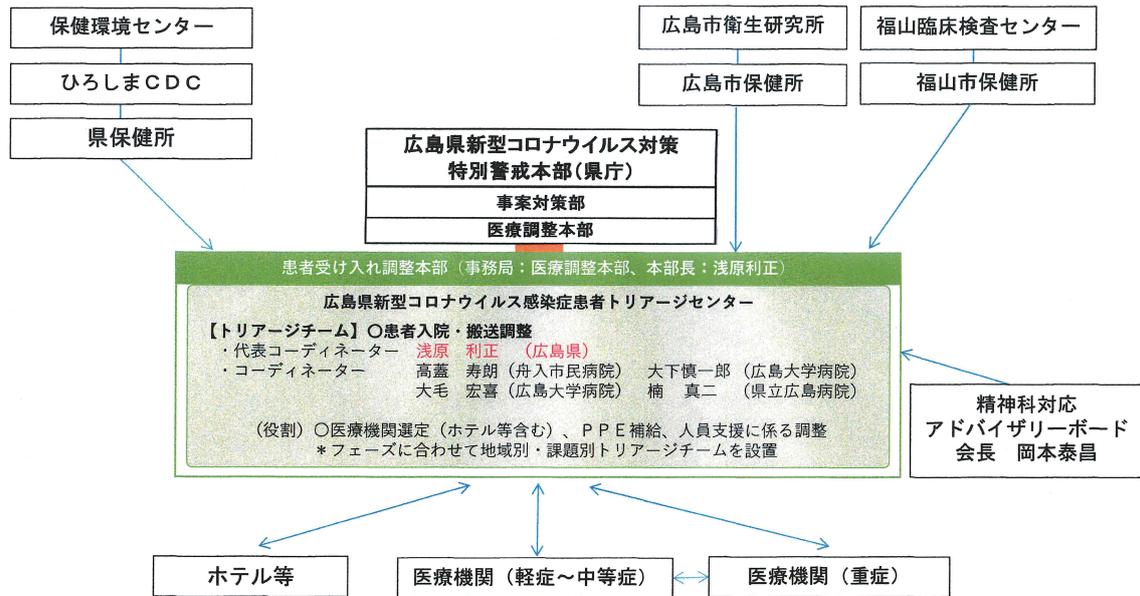


図2 広島県新型コロナウイルス感染症患者トリアージセンター

広島県新型コロナウイルス感染症患者受け入れ調整本部 行

送信者 医療機関名： _____ 担当者氏名： _____

新型コロナウイルス感染症に係る透析患者の入院及び外来の受け入れ医療機関

【受け入れ可能時期】

受け入れ： 可（ ____ 月 ____ 日から受け入れ可能） ・ 不可（どちらかに○をつけてください）

※受け入れ可能な場合のみ、以下に記載

受け入れ可能な曜日（外来）： _____

重症透析患者（人工呼吸器が必要な患者） _____ 名

中等症透析患者（酸素療養等入院治療が必要な患者） _____ 名

【担当者登録票】

医療機関名	所属	職名	受け入れ担当者 (又は責任者) 氏名 (複数記入可)	電話番号	e-mailアドレス	備考

※ 新型コロナウイルス感染症に係る透析患者の外来受け入れに係る連絡調整の目的のみに使用します。

図3 重症・中等症受け入れについてのアンケート調査表

体制が構築された旨、連絡した。同時にまん延期に備え、(公社)日本透析医会等から発出される通知等を参考に感染防止に万全を期すとともに、自院で COVID-19 透析患者の治療を行うことを目指して準備することをお願いした。

[9月11日現在] 累積の COVID-19 透析患者数は全国で 243 名、中国・四国地区 1 名、広島県は 0 名である。

2 課題

広島県でも COVID-19 透析患者治療体制が構築されているが、大きな課題が残っている。まず、県内七つの二次保健医療圏のうち、二つの圏域で感染透析患者受け入れ病院を確保できていない。

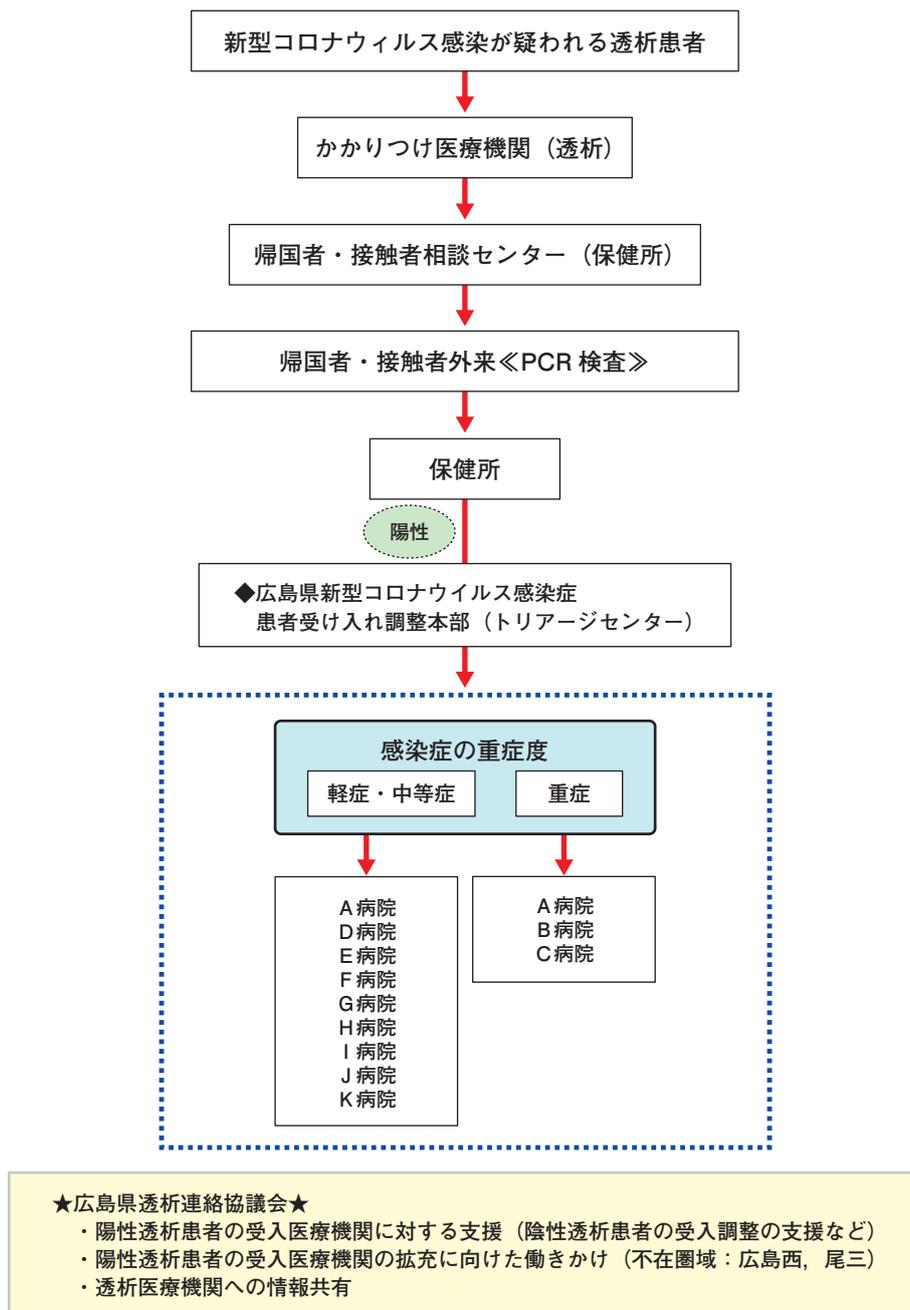


図4 県内における新型コロナウイルス感染が疑われる透析患者の対応フロー図
この図は現時点でのフローであり、感染拡大の状況を踏まえ、必要に応じて随時見直しを行う。

次に、まん延期対策が不十分である。まん延期に備え感染患者受け入れ可能病床を増やし、感染患者受け入れ医療機関の上積みが必要である。透析患者は重症化リスクが高く、重症透析患者対応病床が不足する恐れがある。新たな重症患者受け入れに備え、入院中の重症患者は症状が軽減すれば迅速に転院させる必要がある。中等症・軽症者等対応の入院ベッドにも限りがあり、軽症者・無症状者で全身状態が安定していれば外来で対応せざるをえないと思う。

今後どのように感染拡大が起こるか予測不可能だが、感染規模に応じ、重症患者、中等症患者、軽症患者、無症状患者ごとに適切にトリアージする体制を築くことが最も有効な対策になると考える。さらに、透析患者固有の問題がある。無症状の感染透析患者も数多く報告されてきているが、通常の透析治療では透析室内で3密を避け、物理的な距離（ソーシャルディスタンス）を取ること

が難しい。

ワクチンが行き渡り治療薬が見つかるまで、嚴重な感染防止策を徹底し、慎重に透析医療を行いながら、これらの課題を克服できるよう取り組む必要がある。

香川県

香川県における透析患者の新型コロナウイルス感染症対策

香川県透析医会会長 山 中 正 人

1 概 況

香川県では令和2年3月17日に第1例目の新型コロナウイルス感染症が発生した。4月14日には県独自の緊急事態宣言が発令され4月20日までの感染者数は28名だった。7月10日、81日ぶりに29例目の感染者が発生し、本原稿執筆時である8月12日までに60例の新型コロナウイルス感染症を認めている。香川県では8月7日時点での病床のひっ迫具合が3%、最近1週間の感染状況が前週の7倍および感染経路不明が100%であり、8月21日までは香川県知事より不要不急の外出は控えるよう指導されている。透析患者の感染状況については、日本透析医会を含めた3学会の報告（令和2年8月7日）では、中国四国地区で1人と他の地区と比べまだ少ない。

2 透析患者への対応

香川県透析医会では、本年4月7日に、新型コロナウイルス感染症に対する透析施設での対応について緊急アンケートを行った。まだ新型コロナウイルス感染症に対し十分な知識や治療法等の情報が少ない時期での調査だったが、透析基幹病院では患者受け入れは自院のみだった。透析クリニックでは自院の感染者の受け入れやPCR検査も不可であり、香川県では感染透析患者対策は未知数だった。本年7月26日に開催した香川県透析医会医学会世話人会において、新型コロナウイルス感染症抗原キットの導入等で各施設での透析症例の新型コロナウイルス感染症診断能力は上昇してきている、しかし、新型コロナウイルス感染症治療に対する経験がなく、感染症指定病院での維

第一種感染症指定医療機関

香川県立中央病院 感染症病床 2床

第二種感染症指定医療機関

	感染症病床	結核病床	一般病床または精神病床
高松赤十字病院		2床	
独立行政法人国立病院機構 高松医療センター		20床	
高松市立みんなの病院	6床		
さぬき市民病院	4床		
小豆島中央病院	4床	5床	
坂出市立病院	4床		
独立行政法人国立病院機構 四国こどもとおとなの医療センター			3床
香川県立丸亀病院			4床
三豊総合病院	4床		

図1 感染症病床を有する6感染症指定医療機関